



はじめに

秩父別町の皆様へ

災害は、いつどのように起こるかわかりません。

近年、頻繁に発生する局地的集中豪雨や大規模地震など、日本各地で地震や洪水など大きな災害が多発しています。

突然起こる災害から、自身を、そして地域を守るためには、町の防災対策などの「公助」、自主防災組織の活動などの「共助」、ご家庭の対策などの「自助」が互いに連携し、地域防災力を高めることが重要となります。

「秩父別町防災マップ」には洪水浸水想定区域・避難所等の災害時に避難を判断する際に必要な情報を掲載しています。

本書を身近な場所に保存していただき、ご家庭や地域などの身のまわりで、どのような災害の危険が及ぶのかを考え、防災対策にお役立てください。

浸水想定区域について

令和3年7月に水防法が改正され、今まで浸水想定区域の指定対象とされていなかった中小河川についても同区域指定の対象となりました。

これに伴い、北海道では、想定最大規模(概ね千年に1回の確率)の降雨によって中小河川が氾濫した場合の浸水想定区域を新たに指定しました。

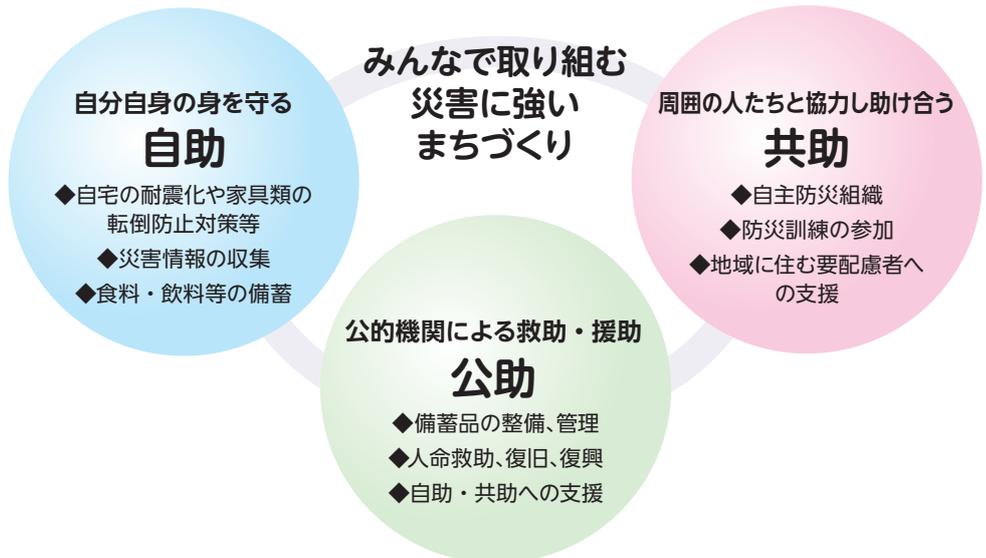
町では、これを受け新たな防災マップを作成しましたが、計画を超えた降雨時や内水の氾濫時等は、指定されていない地域で浸水する場合や、想定している水位が実際の浸水と異なることがあるのでご注意ください。

地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害は、わたしたちの日ごろの努力によって減らすことが可能です。

行政による「公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。ただし、身のまわりの人を助けるには、まず自分自身が無事であればなりません。「自助」があつての「共助」です。

災害が起きてからでは間に合いません。いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



出典：内閣府ホームページ(<https://www.bousai.go.jp/index.html>)を加工して作成

家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

家具の置き方、工夫していますか？



避難場所や避難経路、確認していますか？



食料・飲料などの備蓄、十分ですか？



関連お役立ちサイト、把握していますか？



非常用持ち出しバッグの準備、できていますか？



もしもの時の情報収集、していますか？



安否確認方法、決まっていますか？



出典：首相官邸ホームページ(<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>)を加工して作成